



承認番号 20900BZY00213000

【主要文献及び文献請求先】

- ※※ (主要文献)
- ※※ 1. 医薬発第248号「生命維持装置である人工呼吸器に関する医療事故防止対策について」(平成13年3月27日厚生労働省)
- ※※ 2. 薬食審査発第0315001号/薬食安発第0315001号「加温加湿器に係る使用上の注意の注意等の自主点検等について」(平成16年3月15日、厚生労働省)
- ※※ 3. 薬食安発第0911004/薬食安発第0911002号「人工呼吸器回路における人工鼻と加温加湿器の併用に係る添付文書の自主点検等について」(平成21年9月11日、厚生労働省)
- ※※ 4. 医薬安発第1209002号「生命維持を目的とする医療用具の自主点検について」(平成14年12月9日、厚生労働省)
- ※※ 5. 薬食安発第0305001号「人工呼吸器回路内のウォータートラップの取扱いに関する医療事故防止対策について(依頼)」(平成21年3月5日、厚生労働省)
- ※※ 6. 薬食安発第0229第1号「放射線治療器に係る使用上の注意の改訂について」(平成24年2月29日、厚生労働省)
- ※※ (文献請求先)
- アイ・エム・アイ株式会社 レスピラトリ・ケア部
TEL：048-968-4442

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

- 製造販売業者の名称：アイ・エム・アイ株式会社
- ※ 製造業者名(国名):Vyair Medical, Inc. (パイエア メディカル社) (米国)

- ※※ 2018年12月(第14版 新記載要領に基づく改訂)
- ※ 2017年10月(第13版)

機械器具 06 呼吸補助器

高度管理医療機器

新生児・小児用人工呼吸器

JMDNコード 14361000

特定保守管理医療機器

ベアーカブ 750psv 小児用人工呼吸器

【警告】

＜併用医療機器＞

- ※※ ◆手動式人工呼吸器(アンブ蘇生バッグ)を患者さんの側に準備しておいてください[本体が機能しなくなった場合に備える必要があります]。(主要文献1参照)
- ※※ ◆パルスオキシメータ、カプノメータ等の別の生体情報モニタを併用してください[医療事故防止のため]。(主要文献1参照)
- ※※ ＜使用方法＞
- ※※ ◆アラーム音量は周囲の音より大きく、ナースステーションでも充分に聞こえるレベルに調節し、実際に聞こえることを確認してから、患者さんに使用してください[アラーム音が小さい場合、患者さんを危険にさらす可能性があります]。
- ※※ ◆本体に液体がかかったり、内部に水滴が付くような環境で使用・保管しないでください[内部に水が入ったり、水滴が付いた場合、作動停止や故障の原因となります]。(主要文献4参照)

【禁忌・禁止】

＜併用医療機器＞

- ※※ ◆MRI、電気メスと併用しないでください[誤動作や故障の恐れがあります]。
- ※※ ◆本器とコンプレッサを同一の電源コンセントやテーブルタップに接続しないでください[電圧の低下や変動により、作動不良の原因となります]。
- ※※ ◆加温加湿器と組合せる場合、呼吸回路の患者さん側に人工鼻、フィルタ付人工鼻、フィルタを接続した状態で本体を使用しないでください[人工鼻の流量抵抗増大又は閉塞により、換気が困難となる恐れがあります]。(主要文献3参照)
- ※※ ＜使用方法＞
- ※※ ◆加温加湿器に給水する際は、ガスポートを使用しないでください[誤接続及び誤接続による火傷、ガスポートを介した菌による呼吸回路内汚染の可能性があります]。(主要文献2参照)
- ※※ ◆可燃性ガスのある環境や高圧治療室で使用しないでください。使用した場合、爆発や火災を起こす危険性があります。また酸素を使用する場合、発火元となる可能性のあるものに本体を近づけないとともに、発火防止のためオイルやグリースが表面に付着しないようにしてください[酸素は燃焼を加速します]。
- ※※ ◆本器のコネクタと患者さんに同時に触れないでください[規格以上のリーク電流が患者さんに流れる危険性があります]。

【形状・構造及び原理等】

1. 電氣的定格

本体：AC100V、50/60Hz、1.0A、内部電源DC12V、鉛シールド蓄電池
ベンチレータグラフィックモニタ(オプション):DC22V、15W

2. 供給圧定格

酸素・圧縮空気：2.1～5.5 気圧 (30～80psi、206～551kPa)

3. 寸法及び重量

本体:343(幅)×254(奥)×279(高)mm、13.6kg
ポールスタンド:610(幅)×1029(高)mm、4.08kg
ベンチレータグラフィックモニタ(オプション):330(幅)×64(奥)×241(高)mm、2.49kg

【使用目的又は効果】

本品は、呼吸不全状態を呈する患者さんに、調節呼吸、補助呼吸もしくは補助・調節呼吸を行うための小児用及び新生児用人工呼吸器です。

【使用方法等】

詳細については、取扱説明書及び簡易取扱説明書を参照してください。

1. 電源を入れる

- ① 仕様を満たす電源・圧縮空気・酸素ガス源に接続してください。
- ② 本体ガス取り入れ口に付いているウォータートラップ(圧縮空気)に、水分や塵がついていないことを確認してください。

2. 患者さんに接続する前に

- ① 清潔な呼吸回路・フローセンサを本体に接続してください。
- ② 呼吸回路にテストバックを接続してください。
- ③ 内蔵バッテリーが正しく作動することを確認してください。
- ④ 使用前の点検(取扱説明書の「使用前の点検」を参照)を実施し、本体が正常に作動し、呼吸回路にリークや破損などの無いことを確認してください。
- ⑤ オーバープレッシャーリリーフバルブ(裏面)を適切な値に設定してください。
- ⑥ 加温加湿器のチャンバに滅菌蒸留水をMaxレベルまで注入してください。
- ⑦ モードを選択し、値を調節し、換気条件を設定してください。
- ⑧ 選択したモードで使用可能なパラメータは、明るく表示されます。使用できないものは、暗くなります。

3. 換気条件の設定

- ① モードダイヤルを希望の換気モードに設定してください。
- ② モード、換気条件に合わせ、以下の中から必要な項目を設定してください。
- | | |
|--------------|------------|
| ・吸気時間 | ・PEEP/CPAP |
| ・換気回数 | ・トリガ感度 |
| ・ベースフロー | ・酸素濃度 |
| ・吸気流量 | ・ボリュームリミット |
| ・最大吸気圧 (PSV) | |
- ③ アラームを設定してください。
- | | |
|-----------------|-------------------|
| ・吸気圧上限アラーム | ・分時換気量下限アラーム |
| ・呼吸数上限アラーム | ・PEEP/CPAP 下限アラーム |
| ・無呼吸アラーム (待機時間) | |
- ④ 吸入温度(加温加湿器)を設定してください。

4. 使用中の点検

- ① 加温加湿器のチャンバの水がなくなる前に、滅菌蒸留水を補充してください。
- ② 加湿を最適に保つために、RHコントローラ(MR730)で蛇管の表面にうっすらと湿気がつく程度に調節してください。
- ③ 蛇管に水が溜まるときは、定期的に排水してください。
- ④ 加温加湿器のチャンバ出入口にひび割れの無いことを点検してください。
- ⑤ フローセンサに水が貯留した場合、フローセンサをはずして、水抜きをしてください。
- ⑥ 添付されている人工呼吸器チェックリスト「2. 使用中の点検手順」に従って、点検してください。

5. 電源を切る

- ① 患者さんから呼吸回路をはずしてください。
- ② モードダイヤルをスタンバイにしてください。
- ③ 耐圧ホースをガス源(酸素・圧縮空気)から抜いてください。

6. 使用後の点検

人工呼吸器チェックリストに従って、点検を実施してください。

7. 使用後のあとかたづけ

- ① 呼吸回路をはずして、洗浄・滅菌をしてください。パーツの欠品、傷みを点検し、必要に応じて補充してください。
- ② 加温加湿器のチャンバはディスポーザブルですので、廃棄してください。再使用した場合、加湿能力が低下し、交差感染の危険性があります。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

- ◆ 気道内圧チューブに水滴が流入しないよう、チューブの差込口が常に上になるように設置してください。
- ◆ 気道内圧チューブに水滴が見られた場合には速やかに取り除いてください[水滴で、チューブ内が閉塞し、アラームが誤作動したり、

取扱説明書を必ずご参照ください。

- 適正な換気が維持されない等の恐れがあります。
- ◆フローセンサが呼吸回路に取付けられている場合、ネブライザを使用しないでください。
- ◆本体が正しく作動するためには、呼吸回路内にパーツを追加した場合、次の範囲内にあるように注意してください。コンプライアンス＝0.5mL/cmH₂O(トータル)、抵抗＝1cmH₂O/5LPM(吸気／呼吸側)
- ◆CSS(閉鎖型気管内吸引カテーテル)のご使用にあたっては、過剰な陰圧から患者さん及び本器を守るため、以下の事項にご注意ください。①CSSの添付文書、取扱説明書に従いご使用ください。②トリガ感度をOFFにしないでください。③気道内圧モニタを見ながら、陰圧にならないよう吸引してください。
- ◆外部ガスを駆動源とするネブライザを使用した場合、本器の作動に影響を与える可能性があります。このようなネブライザを使用する場合は、設定条件やモニタ値などに注意してご使用ください。
- ◆ネブライザを患者さんに投与するため、本器の設定を変更した場合、ネブライザ治療が終了した後、患者さんへの適切な換気を確保するため元の設定に必ず戻す、又は設定条件をご確認ください。
- ◆補助ガス出力口の形状は、酸素用DISSコネクタタイプとなっています。この出力口に誤って酸素ガス源を取付けない様に注意してください[本体の作動不良の原因となります]。
- ◆換気口を塞ぐことのないようにご注意ください[内部換気が不足しオーバーヒート(過熱)します]。
- ◆電源電圧が仕様に適合していることをご確認ください。
- ◆AC電源のアース配線が確保されていることをご確認ください。確保されていない場合、本器を外部バッテリーで動作させてください。
- ◆温度プローブは必ず吸気側(インキュベータ外)に取付けてください。
- ◆保管中に充電を忘れた場合、バッテリー寿命が短くなります。また、完全に放電したバッテリーは、本体にダメージを与えます。交換が必要な場合、IMI㈱が認定するサービスマンに連絡してください。
- ◆患者さんに使用する前、使用中も定期的に入力ガスウォータートラップ、フィルタを点検してください。ウォータートラップ内に塵埃や湿気、水滴が見られた場合、本体内に塵埃や湿気、水滴が入り、正常な作動・換気が行われていないことが考えられます。直ちに本器の使用を止め、IMI㈱が認定するサービスマンに連絡してください。
- ◆呼吸回路の中に溜まった水は、適宜排水してください。水が患者さんや本体内に入らないように注意してください。水が入った場合、作動不良の原因となります。本体内部に水が入った場合、直ちに使用を止め、IMI㈱が認定するサービスマンに連絡してください。また呼吸回路内の水を取り除くために、患者さんに接続したまま、圧縮空気によるエアガンなどを使用しないでください。呼吸回路を点検するときは、手をよく洗い、呼吸回路を不潔にしないよう注意してください。
- ◆本器は壁の電源コンセントを使用してください。テーブルタップなどのタコ足配線での使用、同一コンセントで、他の電気機器を使用することはお止めください。
- ◆供給電源電圧の低下や変動は、作動不良の原因となります。
- ◆吸引、呼吸回路の交換、ウォータートラップの排水等の後は、呼吸回路にリークがないことを確認してください。(主要文献5参照)
- ◆ネブライザボトルから呼吸用ガスの漏れが発生しないよう、ボトルとキャップの接続状態の確認を行なってください。またひび割れ等破損がないことを確認してください[リークにより適正な換気が維持されない恐れがあります]。
- ◆吸入酸素濃度を常時モニタしてください。酸素濃度をモニタする際には、上/下限アラーム機能のついた正確な酸素濃度計を使用してください。また市販の血液ガス分析装置により換気効果を判定してください[換気効果が判定されない場合、適正な換気が維持されない恐れがあります]。
- ◆PEEP/CPAP 下限アラームはPEEP/CPAP値以下、かつ、PEEP/CPAP値より・10cmH₂O以内に設定してください[この範囲を外れると、高气道内圧連続アラームが鳴動し吸気側のダンブソレノイドが作動します]。
- ◆作動不良アラームが作動している場合、人工呼吸器を交換してください[作動不良アラーム発生時には全ての機械換気機能が停止します]。
- ◆バッテリー電圧の低下により作動不良アラームが作動した時は、モードダイヤルを一旦スタンバイに戻し、不良原因を取り除いた上で作動させてください[適正な換気が維持されない恐れがあります]。

- ◆オーバープレッシャーリーフバルブは吸気圧上限アラーム値よりも高く設定してください[低く設定した場合、気道内圧が上昇しても、アラームが作動せず、肺損傷の危険性があります]。
- ◆供給ガス圧異常を示すアラームが作動した場合、直ちに使用を中止してください[吸入酸素濃度が変化し、患者さんに傷害を与える恐れがあります]。
- ◆呼吸回路を含めて患者接続部を大気開放した時に、アラームが鳴ることを確認してください。なお呼吸回路の漏れ・外れを検出できるアラーム設定値にしてください[呼吸回路の漏れ・外れがあっても回路先端部に毛布が当たったり、人工鼻やチューブ等が付いている場合や気道の状態やアラーム設定値によってアラームが発生しないことがあります]。
- ◆アラーム音は発生原因を確認するまで止めないでください[適正な換気が維持されない恐れがあります]。
- ◆アラームを設定しない状態で、本器を作動させないでください。アラーム設定後、設定されたアラーム値が患者さんの臨床状態に適合していることを確認し、安全な作動が保証されるようにしてください[患者さんに重篤な傷害を起こす可能性があります]。
- ◆アラーム作動時は、患者さんが危険な状態となっています。直ちに適切な処置を取ってください[適切な処置が取られなかった場合、重篤な傷害(例：死亡)を引き起こす可能性があります]。
- ◆呼吸回路内に貯留した水や呼吸回路の振動、リーク、患者さんの体動等により自発呼吸とは無関係に自動的にトリガがかかることがあります(オートトリガ)。
- ◆患者さんが呼吸回路を外さないように注意してください[回路が外された場合、患者さんが危険な状態に陥ります]。
- ◆アンチスタティック蛇管・チューブあるいは電気的伝導性のある蛇管・チューブを呼吸回路に使用しないでください[感電を防ぐため]。
- ◆再使用型の呼吸回路を使用する場合、定期的に洗浄・消毒又は滅菌してください。また、ディスポーザブル型の呼吸回路を使用する場合、定期的に交換し、再使用しないでください[感染や破損の原因となる可能性があります]。
- ◆ネブライザをご使用の際に、人工鼻や呼吸側回路へのフィルタ装着とネブライザの併用はお止めください[人工鼻や呼吸側回路にフィルタを装着した場合、目詰まりを起こし、患者さんが健康被害を受けることがあります]。
- ◆気道内圧モニタチューブには、IMI㈱が指定する疎水性バクテリアフィルタだけをご使用ください[他のフィルタは作動不良の原因となります]。
- ◆気道内圧モニタチューブには750psv本体内に水が入らないようにパージガスが流れていますが、水を100%防ぐことはできません。750psvに水が入った恐れがある場合、使用を直ちに止めてください[適正な換気が維持されない恐れがあります]。
- ◆気道内圧モニタチューブにはIMI㈱が指定する内径1/8インチ(約3mm)のチューブだけをご使用ください。チューブに抵抗となるアダプタなどを取付けしないでください[気道内圧モニタチューブ、フィルタに規格以上の抵抗がある場合、実際の気道内圧はモニタ値よりも低くなります]。
- ◆呼吸弁部分の分解、組立てについては750psvの取扱説明書を参照し、コントロールピンを外した場合、正しく組立てた後、必ず所定の点検を行ってから使用してください[適正な換気が維持されない恐れがあります]。
- ◆呼吸弁ベース Assyを分解しないでください[誤動作や故障の恐れがあります]。
- ◆点検時は新しいフィルタを使い、直接本体からのガスを吸入しないでください[患者さんと点検者の交差感染を防ぐため]。
- ◆自己診断を実施する際は、患者さんへの接続を外してから行なってください[自己診断中、本器はガスを供給しません]。
- ◆高圧ガス(酸素・圧縮空気)の耐圧ホースや金具は7kg/cm²に耐える製品を使用ください[耐えられない製品では耐圧ホースなどの破損、使用者の怪我や作動不良原因となります]。
- ◆使用しない時は、必ず耐圧ホースをガス源から抜いてください[本体が故障していた場合、施設のガス配管の濃度に重篤な影響を与える可能性があるため]。
- ◆トリガ感度は患者さんの状態に合わせて適切に設定してください[トリガ感度の設定が鋭敏過ぎる場合、自発呼吸とは無関係に自動的にトリガがかかることがあります(オートトリガ)]。
- ◆IE比逆転換気中は、患者さんを注意深く観察・モニタをしてくだ

- さい[IE比逆転換気の際の短い呼吸時間は、不完全な呼吸やエアートラッピングやAUTO-PEEPを引き起こし、過度なAUTO-PEEPは、1回換気量の減少、気圧性外傷、心拍出量の減少を引き起こします]。
- ◆圧を観察しながら、ベースフローやPEEP/CPAPを変更ください[PEEP/CPAP圧の設定レベルによっては陰圧が患者さんに加わります]。
- ◆近くで雷が発生した場合、AC100V電源コンセントからプラグを抜き、バッテリーで動作させてください[プラグを付けたままにした場合、本体の作動に影響を与えることがあります]。
- ◆電源コードを束ねたり、折り曲げたりして使用しないでください[作動不良や火災を防止する恐れがあります]。
- ◆本器を使用しない場合でも、内部バッテリーを搭載しているため、AC100V電源に接続しておいてください[充電が行われなかった場合、適正な換気が維持されない恐れがあります]。
- ◆バッテリーにより本器を動作させる場合、バッテリー残量に注意しながら使用してください。また、仕様に適した電源が取れる環境となった場合、速やかに電源コードをコンセントに差し込みご使用ください[バッテリーが空になった、もしくは消耗した場合、本器は作動を停止します]。
- ◆最大吸気圧の設定値に注意してください[最大吸気圧がボリュームリミットに達した時の気道内圧よりも30%以上も高い圧に設定されている場合、実際に患者さんに送られる1回換気量はリュームリミットを大きく上回ることがあります]。
- ◆フローセンサなしの状態では患者さんに使用しないでください[適正な換気が維持されず、患者さんに重篤な傷害を起こす可能性があります]。
- ◆作動中に回路からフローセンサを外さないでください[センサを外すとトリガ機能とボリュームリミット機能は作動しません。設定を変えない場合、患者さんに重篤な傷害を起こす可能性があります]。
- ◆コンピュータ、無線通信設備、エレベータの動力源など、電磁波を発生させる機器が周辺にない場所で使用してください。また、本器の使用時、パソコン、ゲーム機、携帯電話などの電磁波を発生させる機器を使用しないでください[電磁妨害波が存在する環境下では誤作動を起こす可能性があります]。
- ◆ケーブル類や呼吸回路、アクセサリ類に過度なテンションをかけないでください。
- ◆電源コードに損傷がなく、接続が正確・安全であることを確認してください。また損傷を防ぐため、電源コードの上に物を置いたり、人が歩く場所に電源コードを置かないでください。
- ◆高圧酸素ボンベで使用する場合、認可された酸素供給用減圧弁だけを使用してください[油性物質の側で酸素に圧力を加えると、自然に発火したり、激しく発火することがあります]。
- ＜相互作用＞
- ＜併用禁忌＞

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
核磁気共鳴画像診断装置(MRI装置)	使用禁止	電磁障害によって誤動作や故障の恐れがあります。
一般的電気手術器(電気メス)	使用禁止	高周波エネルギーによって誤動作や故障の恐れがあります。
加温加湿器/人工鼻	加温加湿器と人工鼻の併用禁止	人工鼻の流量抵抗増大又は閉塞により、換気が困難となる恐れがあります。

- ＜併用注意＞
- ◆除細動器を使用すると誤作動を起こす可能性があります。処置上やむを得ず近くで使用する場合には、作動状況の監視を行ってください[電磁干渉により本器が誤作動する可能性があるため]。
- ◆本体は、放射線治療室内^(注1)に持込むと、誤作動を引き起こす可能性があります[放射線(電磁波又は粒子線)により、本体の回路に影響が及ぶことがあります]。
- ◆本体を、処置上やむを得ず治療室内^(注1)に持込む場合には、動作状況の監視を行うとともに、誤作動等の発生時に早急な対処ができるよう準備しておいてください。
- 注1：主要文献6に記載される放射線治療室内及び治療室内
- ＜その他の注意＞
- ◆不安定な架台・テーブルの上に置かないでください。
- ◆機器を設置・保管する時には、次の事項に注意してください。①水のからまない場所に設置・保管。また、本体の上に水を入れたものを置かないでください。②気圧、温度、湿度、日光、ほこり、

- 塩分・イオウ分などを含んだ空気などにより、悪影響の生ずる恐れのない場所に設置・保管。③傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)などがない安定した状態となっていること。④化学薬品の保管場所や可燃性麻酔ガスの発生する場所に設置、保管しない。⑤長時間、高温となる場所に設置・保管しない。⑥アース線が正しく接続できる壁面接地端子を備えている場所に設置・保管。⑦電源の周波数・電圧及び許容電流の値(又は消費電力)が仕様を満たしている場所に設置・保管。⑧換気のよい場所、臭い、大気汚染のない場所に設置・保管。また壁やカーテンから10cm以上離す。
- ◆各アクセサリ類の滅菌の際は、滅菌の最大温度を守ってください。
- ◆呼吸弁等のアクセサリは精密部品です。取付け、取り外し、洗浄の際は、取り扱いに注意してください。
- ◆バクテリアフィルタはオートクレーブのみ可能です。洗浄・リンス・パストール殺菌・EOG滅菌・消毒薬に浸すことはできません。詰まったり、流量抵抗が増大します。
- ◆フローセンサに洗浄器具(ブラシなど)を入れないでください[フローセンサを損傷し、換気測定ができなくなります]。
- ◆接続部のいたみ、リークの発生を防止するため、アダプタやコネクタをつないだまま、ガス滅菌やオートクレーブしないでください。
- ◆本体を滅菌しないでください。内部パーツは滅菌に耐えられません。また、本体に洗剤や消毒・殺菌薬を吹きかけないでください。
- ◆フェノール、ジメチルアンモニウムクロライド、塩素を含む消毒・殺菌薬、2%を超えるグルタルアルデヒド溶液を、本体のクリーニングに使用しないでください[プラスチック部分を傷めることがあります]。
- ◆表面を痛めるのでトリクロロエチレン等は使用しないでください。
- ◆本体、アクセサリの洗浄や乾燥時に高圧ガスを使用しないでください[破損の原因となります]。

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

保管温度：－40～＋70℃

保管相対湿度：0～99%(非結露)

2. 耐用期間【自己認証(製造業者データ)による】

指定された保守点検及び消耗品の交換が実施された場合：本体8年
ただし、清掃、交換を含めて取扱説明書通りに使用された場合。

【保守・点検に係る事項】

本器はユーザーによる日常の機能点検に加え、メーカーの定める作動時間による定期保守点検が必要です。詳細については、取扱説明書及びメンテナンスマニュアルをご参照ください。

1. 使用者による保守点検事項

日常

＜洗浄／清掃／滅菌＞

- ①電源プラグを電源コンセントから抜いてから、適切な殺菌薬を湿らせた柔らかい布を使って、本体外面を清拭してください。
- ②病院の基準に従って呼吸回路、呼吸弁、ウォータートラップを洗浄・滅菌してください(詳しくは取扱説明書を参照してください)。
- ③フローセンサを洗浄・滅菌してください。その際に超音波洗浄器は使用しないでください。洗浄には酵素系の薬剤を使用してください。
- ④エアーインレットウォータートラップは、温水でのクリーニングが可能です。組立て時にボールを絞めすぎないように注意してください。

＜機能点検＞

作動させる際は常に、人工呼吸器チェックリストに従って、点検を行い、仕様通りに正常に作動することを確認してください。

＜内蔵バッテリーの充電・交換＞

バッテリーは使用していない場合でも、自然放電により電圧が低下します。使用後や保管時は常にAC100V電源に電源プラグをつなぎ、内蔵バッテリーを充電してください(約4時間でフル充電されます)。バッテリーの交換時は、取扱説明書を参照してください。交換したバッテリーは、国内法規に則り、廃棄してください。

2. 業者による保守点検事項

＜6ヶ月点検、1年点検、2年点検＞

IMI㈱が認定するサービスマンが定期保守点検を実施してください。